

研究テーマ 回復過程にある入院患者のアドバンス・ケア・プランニングに対する
関心や思いを支える看護実践

病 院 名 医療法人社団健育会 石巻健育会病院

研 究 者 ^{たけやま ゆみこ} ○武山裕美子(看護師) 庄司正枝(看護師) 遠藤千恵(看護師)
菊池美咲(看護師)

概 要

【研究背景】

アドバンス・ケア・プランニング(Advance Care Planning 以下ACP)は、健康な時期や慢性疾患を持ちながら生活する時期に介入を考えることが重要であると言われている。患者や家族の代弁者となる看護師には身近な支援者としてACPを支える役割が期待されている。

【研究目的】

回復過程にある入院患者のACPに対する関心や思いはどうなっているのかを抽出し、患者のACPを支える看護実践への示唆を得る。

【研究方法】

1. 研究デザイン: 質的研究
2. 研究期間: 2021年4月～9月
3. 研究対象者: A病院の地域包括ケア病床、回復期リハビリテーション病棟入院1ヶ月経過の患者
4. データ収集方法:
 - 1) 調査内容: 基本属性・医療処置の有無・FIM点数・インタビュー時間
 - 2) 回復過程の入院患者の関心や思いについて半構造化インタビュー(ACPという言葉は知っているか、誰かに意思表示をしたことはあるか等)を実施、言葉が分からない場合は説明し、内容は録音する
5. データ分析方法: インタビュー内容は逐語録化しカテゴリーに分類し分析
6. 倫理的配慮: A病院倫理委員会で承認を得た。対象者には書面で同意を得た

【結果】

インタビューは入院患者10名に実施し全ての患者にACPの説明を行った。以下10のカテゴリーを抽出した。①ACPという言葉はわからない、②もしもの時のことを考えている、③もしもの時のことは考えていない、④大切な人へ思いを伝達している、⑤大切な人へ思いを伝達していない、⑥大切な人へ自分の今後を任せたい思いと負担をかけたくない思いがある、⑦今後の自分の身体や生活への不安がある、⑧ACPについて話し合う際の医療スタッフは頼れる、⑨入院中にACPを話題にすることは大切である、⑩自分の人生は自分で決めたい

10のカテゴリーの②と③に着目、②のサブカテゴリーには「余生について具体的に考えている」等があり、③には「先のことは考えられない」等があった。

【考察】

ACPの説明をすることで対象者から理解が得られ、⑥⑦⑨のカテゴリーからは前向きな関心や周囲への気遣いが推察された。また回復過程の患者は、慢性疾患を持ちながら生活する時期の人々であり、⑨⑩のカテゴリーからも入院がACPを考える動機付けにつながると推察される。⑧のカテゴリーから医療スタッフへの期待があり、看護師には患者の思いをくみ取る役割があると考えられる。③のカテゴリーの人は、将来像への具体的なイメージを抱いていなかったと考える。

【結論】

1. 回復過程にある入院患者はACPに対して、肯定的な思いや前向きな関心があると示唆された
2. 看護実践は、言葉を紐解き説明すること、考えるきっかけや対話の時間をつくること、もしもの時のことを考えていない人には具体的な状況に置き換えた説明が肝要となる